

お知らせ

日本熱帯農業学会第120回講演会

期 日 2016年10月8日(土), 9日(日)
場 所 鹿児島大学農学部郡元キャンパス 農・獣医共通棟
事務局 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24
運営委員長 坂上潤一
運営委員 遠城道雄、山本雅史、下田代智英、一谷勝之、朴 炳宰、
山本宗立、志水勝好

参加費および懇親会費

参加費：一般：5,000円，学生：3,000円(要旨集代含む)

懇親会費：一般：5,000円，学生：2,000円

発表者について 発表者は会員に限ります。入会されていない方は発表当日までに受け付けでご入会下さい。

受付 農・獣医共通棟101講義室前(10月8日(土)8:30～、10月9日(日)8:30～)

10月7日(金)	会場：農・獣医共通棟3階大会議室
15:00～17:00	評議員会
17:00～19:00	若手の会

第1日	第1会場	第2会場
10月8日(土)	農・獣医共通棟201講義室	農・獣医共通棟203講義室
9:00～12:00	研究発表(講演番号1～12)	研究発表(講演番号13～24)
12:00～13:00	ポスターセッション(101講義室西)	
14:00～17:30	公開シンポジウム(101講義室)	
18:00～20:00	懇親会・学生優秀発表賞授賞式(教育学部生協)	

第2日	第1会場	第2会場
10月9日(日)	農・獣医共通棟201講義室	農・獣医共通棟203講義室
9:00～12:15	研究発表(講演番号25～37)	研究発表(講演番号38～49)

日本熱帯農業学会第120回講演会プログラム

第1日 10月8日(土) 研究発表(発表12分, 質疑応答3分) 太字は学生優秀発表賞審査対象

開始時刻	座長	第1会場 (農・獣医共通棟201講義室)	座長	第2会場 (農・獣医共通棟203講義室)
9:00		1. アグロイノキュレーションによるタバコへの Ageratum yellow vein virus 接種法の確立 *本間鹿波 ¹ ・田中三菜美 ¹ ・田中友理 ² ・Elly Kesumawati ³ ・神崎真哉 ¹ ・小枝壮太 ¹ (¹ 近畿大農学研究科・ ² 京大農学研究科・ ³ シアクアラ大学)		13. 国内に栽植されたアボカドの古い木を探索して環境適応性と栽培可能地域を推定する。 樋口浩和・*下野祐依(京大院農学研究科)
9:15		2. キャッサバ植物体の表層及び組織内に分布する真菌相の分析。 *西村 涼 ¹ ・佐藤宏樹 ¹ ・竹内祐子 ¹ ・遠藤力也 ² ・Jirawat SANITCHON ³ ・縄田栄台 ¹ (¹ 京大院農学研究科・ ² 理化学研究所バイオリソースセンター・ ³ Khon Kaen Univ.)		14. 土壌pH がパッションフルーツの果実品質・葉内ミネラル含量・栄養生長および生理反応に及ぼす影響。 *庭山翔太・樋口浩和(京大院農学研究科)
9:30		3. 半乾燥熱帯アフリカにおいて水分条件と耕作年数がトウジンビエの生育に与える影響。 *中島健吾 ¹ ・今仲紳介 ¹ ・岡田健太郎 ¹ ・真常仁志 ^{1,2} ・舟川晋也 ^{1,2} (¹ 京大院農学研究科・ ² 京大院地球環境学堂)		15. 鉢吊り下げ型整枝法におけるパッションフルーツの水ストレスと開花数の関係性 *飯田康仁 ¹ ・庭山翔太 ² ・藤井佳祐 ² ・樋口浩和 ² ・橋本真帆 ³ ・須崎徳高 ³ ・市ノ木山浩道 ³ (¹ 京大農・ ² 京大院農・ ³ 三重県農業研究所)
9:45		4. ナミビア国におけるイネトウジンビエ混作栽培: 作物の水源と生理に及ぼす湿害ストレスの影響。 *渡邊芳倫 ¹ ・Fisseha ITANNA ² ・泉泰 弘 ³ ・Simon K. AWALA ² ・飯嶋盛雄 ^{1,4} (¹ 近大農・ ² Faculty of Agriculture and Natural Resources, University of Namibia・ ³ 滋賀県大環境科学・ ⁴ JST/ JICA, SATREPS)		16. 沖縄におけるレモングラス(<i>Cymbopogon citratus</i>)の栽培に関する研究。 *宮城利佳 ¹ ・M. A. ホサイン ² ・赤嶺 光 ² ・内田理貴哉 ¹ ・鈴木千裕 ¹ ・M. S. I. MAJUMDER ¹ (¹ 琉大農学研究科・ ² 琉大農)
10:00		5. Evaluation on panicle structure of global rice genetic resources toward the Green Revolution in Tanzania. *Kei SATO ^{1,2} ・Agnes A. KAPINGU ¹ ・Habai R. MASUNGA ¹ (¹ Agricultural Research Institute-Ukiriguru, Tanzania, ² Research Faculty of Agriculture, Hokkaido Univ.)		17. 沖縄におけるいくつかの熱帯マメ科作物の生育特性、バイオマス生産および栄養状態について。 *M. S. I. マジウムダル ¹ ・M. A. ホサイン ² ・赤嶺 光 ² ・宮城利佳 ¹ ・内田理貴哉 ¹ (¹ 琉大農学研究科・ ² 琉大農)
10:15		6. アジアイネ(<i>Oryza sativa</i>)を遺伝的背景にもつオーストラリア野生イネ <i>O. meridionalis</i> のイントロgressionラインの開発。 *植村真郷 ¹ ・門田健太郎 ² ・田浦 悟 ³ ・石川隆二 ⁴ ・佐藤雅志 ⁵ ・一谷勝之 ² (¹ 鹿大院農・ ² 鹿大農・ ³ 鹿大遺伝子・ ⁴ 弘前大農学生命・ ⁵ 東北大院農)		18. 沖縄におけるハンダマの栽培に関する研究 *内田理貴哉 ¹ ・Md. Amzad HOSSAIN ² ・仲村一郎 ² ・宮城利佳 ¹ ・鈴木千裕 ¹ ・Majumder Md. Sagirui ISLAM ² (¹ 琉大農学研究科・ ² 琉大農)
10:30		7. イネ白葉枯病抵抗性突然変異系統XM6の抵抗性遺伝子xs20のマッピング。 *川口祥輝 ¹ ・一谷勝之 ² ・Constantine BUSUNG ³ ・田浦 悟 ⁴ (¹ 鹿大院農・ ² 鹿大農・ ³ 鹿大連大・ ⁴ 鹿大遺伝子)		19. ヘアリーベッチ(緑肥)とカリウム施肥がウコン(<i>Curcuma longa</i> L.)の生育, 収量および品質に及ぼす影響。 *鈴木千裕 ¹ ・Md. Amzad HOSSAIN ² ・仲村一郎 ² ・田中千盛 ² ・宮城利佳 ¹ ・内田理貴哉 ¹ (¹ 琉大院農学研究科・ ² 琉大農)

10:45	<p>8. カンボジア西部地域より収集したトウガラシ (<i>Capsicum</i> spp.) 遺伝資源の評価. *畠山佳奈実¹・松島憲一²・松永 啓³・友岡憲彦⁴・Sakhan SOPHANY⁵・朴 永俊⁶・根本和洋・南 峰夫⁷ (¹信大院理工(農)・²信大学院農・³農研機構野菜花き部門・⁴農研機構遺伝資源セ・⁵CARDI Cambodia・⁶信大農)</p>	<p>20. 耐塩性の異なるダイズ品種間でのカリウム施与量の違いが塩ストレス下の栄養成長に及ぼす影響. *藤井佳祐¹・樋口浩和¹・Md. Abdul KARIM² (¹京大院農学研究所・²BSMRAU Bangladesh)</p>
11:00	<p>9. インドネシアのトウガラシ生産圃場におけるベゴモウイルスの感染状況. *小枝壮太¹・田中友理²・本間鹿波¹・Elly KESUMAWATI³・Sabaruddin ZAKARIA³ (¹近大農学研究所・²京大農学研究所・³シアクアラ大学農)</p>	<p>21. 耐乾性の異なるサトウキビ2品種の混植が地下部形成に与える影響. *實川拓生^{1,2}・渡邊健太^{1,2}・Dinh Thai HOANG^{1,2}・川満芳信¹ (¹琉大農・²鹿大院連合農学研究所)</p>
11:15	<p>10. インドネシア・マルク州におけるトウガラシ属の利用. *山本宗立¹・Wardis GIRLANG² (¹鹿大国際島嶼教育研究センター・²パティムラ大農)</p>	<p>22. 灌漑水中塩濃度がサトウキビの生育および糖度に与える影響. *渡邊健太^{1,2}・實川拓生^{1,2}・川満芳信¹ (¹琉大農・²鹿児島連大)</p>
11:30	<p>11. ネパール中部地区で収集されたアマランサス・トウガラシ遺伝資源. *根本和洋¹・松島憲一¹・B. K. JOSHI²・H. K. GHIMIRE²・須田元輝³・畠山佳奈実³ (¹信大学院農・²ネパール農業研究評議会 ジーンバンク・³信大院理工(農))</p>	<p>23. サトウキビの土壌水分ストレスに伴うガス交換速度の変化. *中原麻衣^{1,2}・實川拓生^{1,2}・渡邊健太^{1,2}・Dinh T. HOANG^{1,2}・川満芳信¹ (¹琉大農・²鹿大院連合農学)</p>
11:45	<p>12. Effect of 1-MCP on ethylene regulation and quality of tomato cv. Red Ore. *Dawlat Shah POYESH, Mustafa HARIS, Naoki TERADA, Atsushi SANADA, Hiroshi GEMMA, and Kaihei KOSHIO (Tokyo Univ. of Agriculture)</p>	<p>24. 絶滅の危機に直面する沖縄の在来作物. *高江洲賢文・玉城盛俊・砂川春樹 (沖縄県農業研究センター)</p>
12:00~ 13:00	ポスター発表 (101講義室西)	
13:00~ 14:00	昼休み	
14:00~ 17:30	<p>公開シンポジウム (101 講義室) 講演テーマ: アジアからアフリカへ緑の革命は起こされるのか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアの灌漑開発の経験をアフリカに活かすーフィリピン・プサオ小規模灌漑システムの成功要因 角田宇子氏 (亜細亜大学) ・ネリカはサブサハラ・アフリカで普及するか、ウガンダの経験から 西牧隆三氏 (JAICAF) ・アフリカ産低品位リン鉱石の活用-アフリカ肥料革命の実現に向けて- 中村智史氏 (JIRCAS) ・アフリカにおける緑の革命には孤児作物 (Orphan Crop) 研究がカギになる 志和地弘信氏 (東京農業大学) ・東南アジアの農業技術をサブサハラアフリカへ適応させるには (天水稲作向け意志決定支援システムを例に挙げて) 林 慶一氏 (JIRCAS) ・アジアからアフリカへ 緑の革命は起こされるのか 	

	坂上潤一 (鹿児島大学)
18:00~ 20:00	懇親会(会場:教育学部生協)

第2日 10月9日(日) 研究発表(発表12分, 質疑応答3分)

開始時刻	第1会場 (農・獣医共通棟201講義室)	第2会場 (農・獣医共通棟203講義室)
9:00	25. 鹿児島県での雨除け栽培におけるパパイア果実生産の可能性 内野浩二 ¹ ・岩田浩二 ¹ ・濱島朗子 ¹ ・久木田等 ¹ ・*熊本 修 ¹ ・松島健一 ² (鹿児島農総セ果樹部・ ² 鹿児島農総セ果樹北薩)	38. The char lands: A new hope for Bangladesh agriculture. *Md. Abdul KARIM ¹ , Md. Abdul QUAYYUM ² , Sayed SAMSUZZAMAN ³ , Hirokazu HIGUCHI ⁴ , and Eiji NAWATA ⁴ (Banagabandhu Sheikh Mujibur Rahman Agricultural Univ., ² Bangladesh Agricultural Research Institute, ³ Northbengal Institute of Development Studies, ⁴ Graduate School of Agriculture, Kyoto Univ.)
9:15	26. パインアップルにおける主要果実形質のQTL解析. *奈島賢児 ^{1,2} ・竹内誠人 ³ ・諸見里知絵 ³ ・正田守幸 ⁴ ・浦崎直也 ⁴ ・太郎良和彦 ⁴ ・保坂ふみ子 ² ・寺上伸吾 ² ・西谷千佳子 ² ・國久美由紀 ² ・山本俊哉 ² (¹ 日大生物資源科学・ ² 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門・ ³ 沖縄県農業研究センター名護支所・ ⁴ 沖縄県農業研究センター)	39. The challenges and opportunities of crop establishment in the char lands of northern Bangladesh. * Md. Abdul KARIM ¹ , Hirokazu HIGUCHI ² , and Eiji NAWATA ² (Banagabandhu Sheikh Mujibur Rahman Agricultural Univ., ² Graduate School of Agriculture, Kyoto Univ.)
9:30	27. パインアップル ‘ゴールドバレル’ のハウス栽培による高品質果実出荷時期. *竹内誠人 ¹ ・諸見里知絵 ¹ ・玉城 聡 ¹ ・正田守幸 ² (¹ 沖縄農研セ名護・ ² 沖縄農研セ)	40. 焼畑に伴う開墾により土壌養分はどれくらい低下するのか〜カメルーンにおける土壌微生物の基質反応特性を用いた解析. *杉原 創 ^{1,2} ・藤盛瑤子 ² ・柴田 誠 ² ・Mvondo Ze A ³ ・荒木 茂 ⁴ ・舟川晋也 ² ・小崎 隆 ⁵ (¹ 農工大院農・ ² 京大院農・ ³ Dschang大・ ⁴ 京大アブ研・ ⁵ 首都大院都市環境)
9:45	28. レイシの開花と花粉発芽力に及ぼす温度と湿度の影響 * 松田大志・樋口浩和 (京大院農学研究科)	41. ナミビア北中部におけるギョウギシバによる雑草害と耕種法・土壌特性との関係 管野未歩 ¹ ・手代木功基 ² ・内田 諭 ³ ・*真常仁志 ¹ (¹ 京大院地球環境・ ² 総合地球環境学研究所・ ³ 国際農林水産業研究センター)
10:00	29. 2016年1月下旬の寒波がタンカンの果実品質に与えた影響. *岩田浩二・内野浩二・久木田等・濱島朗子・熊本修 (鹿児島農総セ果樹)	42. 沖縄におけるジャトロファ栽培が困難な理由. *伏見 カ ¹ ・北宅善昭 ² (国際農林水産業研究センター・ ² 大阪府大)
10:15	30. タンカン ‘垂水1号’ の落葉, 収量および果実品質に及ぼす台木の影響. *久木田等 ¹ ・川村秀和 ² ・内野浩二 ¹ ・上之菌茂 ³ ・東明弘 ¹ ・松島健一 ⁴ (鹿児島農総セ果樹・ ² 鹿児島農総セ農大校・ ³ 鹿児島大隅加工セ・ ⁴ 鹿児島農総セ果樹北薩)	43. Depopulation and abandoning farming problem as a global issue: Bhutanese scholars’ comparative experience in Japan, summer 2016. *Kazuo ANDO ¹ , Yoshio AKAMATSU ¹ , Haruo UCHIDA ¹ , Sumjay TSHERING ² , Pema CHODEN ² , Tenzin WANGCHUK ² (¹ CSEAS, Kyoto Univ., ² Sherubtse College, Royal Univ. of Bhutan)

10 : 30	31. マンゴー 'Irwin' における花成誘導因子MiFTの発現に関する諸要因の検討. *神崎真哉 ¹ ・志水恒介 ² ・小枝壮太 ¹ ・中田昌希 ¹ ・河村 征 ¹ ・山本拓実 ¹ ・木下直哉 ¹ ・宇都宮直樹 ² (¹ 近大農・ ² 近大附属農場)	44. ベトナム北部山岳地帯における野菜遺伝資源の探索. *下村晃一郎 ¹ ・杉山慶太 ² ・吉岡洋輔 ³ ・Nguyen Van KIEN ⁴ ・Tran Thi Thu HOAI ⁴ (¹ 農研機構野菜花き・ ² 農研機構北農研・ ³ 筑波大生命環境系・ ⁴ ベトナムPlant Resource Center)
10 : 45	32. アボカドの低温障害におよぼす遮光の影響. *近藤友大 ¹ ・本勝千歳 ² (¹ 宮大地域資源創成・ ² 宮大農)	45. ベトナム、ソンラ省における安心安全野菜生産の予備的研究 *西村美彦 ¹ ・狩野良昭 ¹ ・Nguyen Thi QUYEN ² ・Hoang Van THANH ² (¹ IFPaT専門家・ ² タイバック大農林)
11 : 00	33. ミクロネシア連邦チューク州の在来カンキツ遺伝資源. *山本雅史 ¹ ・河合 溪 ² ・森 隆子 ³ (¹ 鹿大農・ ² 鹿大国際島嶼教育研究センター・ ³ 鹿大医)	46. Effects of biochar from rice husk and <i>Chromolaena odorata</i> on tomato growth and soil properties of red and white soils in Cambodia. *Vicheka LORN ¹ , Haruo TANAKA ² , and Yosei OIKAWA ² (¹ United Graduate School of Agricultural Science, Tokyo Univ. of Agriculture and Technology, ² Institute of Agriculture, Tokyo Univ. of Agriculture and Technology)
11 : 15	34. The nitrogen-fixing endophytes bacteria associated with the lesser yam (<i>Dioscorea esculenta</i> L.). *Abdul Qayom REZAEI ¹ , Hidehiko KIKUNO ¹ , Pachakkil BABIL ¹ , Naoto TANAKA ¹ , Byoung-Jae PARK ² , Michio ONJO ² , and Hironobu SHIWACHI ¹ (¹ Tokyo Univ. of Agriculture, ² Kagoshima Univ.)	47. ケニア国ムエア地区の水田での窒素増肥に対するイネの収量反応性. S. M. NJINJU ^{1,5} ・*鮫島啓章 ^{2,5} ・J. P. GWEY-ONYANGO ^{3,5} ・菊田真由実 ^{2,5} ・J. M. KIMANI ^{1,5} ・山内 章 ^{4,5} ・榎原大悟 ^{2,5} (¹ ケニア農畜産業研究機構・ ² 名大農 国際教育協力研究センター・ ³ ケニヤッタ大学・ ⁴ 名大院生命農学研究科・ ⁵ JST/JICA SATREPS)
11 : 30	35. Variation in morphological characteristics, yield components and genetic distance among sago palm folk varieties in Papua, Indonesia and Papua New Guinea. Hiroshi EHARA ¹ , Toshiki YAMAMOTO ² , Hitoshi NAITO ³ , Takashi MISHIMA ² , Yukio TOYODA ⁴ and Barahima ABBAS ⁵ (¹ Nagoya Univ., ² Mie University, ³ Kurashiki Univ. of Science and The Arts, ⁴ Rikkyo Univ., ⁵ Univ. of Papua)	48. 東北タイの天水田内のシロアリ塚除去跡でのイネの生育と収量. *宮川修一・笠原翔太・田畑桃子・竹中千里 ¹ (岐阜大応用生物科学・ ¹ 名大院生命農学研究科)
11 : 45	36. 日本における違法伐採対策とその動向 百村帝彦 (九州大学熱帯農学研究センター)	49. 熱帯農業におけるIoTの活用. *川満芳信 ¹ ・上野正実 ¹ ・中原麻衣 ^{1,2} ・後藤秀樹 ³ (¹ 琉大農・ ² 鹿大連合農学・ ³ ADS)
12 : 00	37. 製紙スラッジから分離されたセルロース分解糸状菌の性状解析とその特性について. *彭 素 ¹ ・M. ZAW ¹ ・松元 賢 ² (¹ 九大地球社会統合科学府・ ² 九大熱帯農学研究センター)	

ポスターセッション (101 講義室西) 太字は学生優秀ポスター発表賞審査対象

P1. キイロクダモノトケイソウにおける温度と光合成特性との関係.

*島田温史¹・山本雅史^{1,2} (¹鹿大院連合農学研究科・²鹿大農)

P2. エジプト・ナイルデルタにおけるトウモロコシおよびマメ科作物の間作に関する研究 ―塩ストレスがエジプトのトウモロコシ品種の発芽および初期生育に及ぼす影響―

*佐々木めぐみ^{1,4}・丸山幸夫^{2,4}・志水勝好^{3,4} (筑波大生命環境科学研究科・筑波大生命環境系・³鹿大農・⁴JST/JICA, SATREPS)

P3. アセロラ (*Malpighia glabra* L.) 甘味系品種 ‘Florida Sweet’ の腋芽培養における培地条件の検討.

*楠 聡太・大場 賢・山本雅史 (鹿大農)

P4. DNA分析によるミクロネシア連邦チューク州の在来カンキツ遺伝資源の分類.

*名取祐太・山本雅史 (鹿大農)

P5. マンゴー ‘愛紅’ におけるせん定時期と着果が次年度における花芽形成に及ぼす影響.

*志水恒介¹・神崎真哉²・宇都宮直樹¹ (近大附属農場湯浅農場・²近大農)

P6. サトウヤシ果実の過剰採取抑制要因の検討―タイ北部ナーン県S村の事例から―

*守沖 彩¹・竹田晋也¹・Vipak JINTANA²・Nittaya MIANMIT² (京大院アジア・アフリカ地域研究研究科・²カセサート大林)

P7. ミャンマー中央乾燥地域村落における農外就労機会の多様化に伴う農林業システムの変化.

*井上 瞳¹・小坂康之¹・竹田晋也¹・Theingi MYINT² (京大アジア・アフリカ地域研究研究科・²イェジン農科大)

P8. 組織培養苗を利用したウコン類 (*Curcuma* spp.) の生産性.

高下卓磨¹・*朴 炳宰¹・栢木琢磨²・遠城道雄¹ (鹿大農・²鹿児島県大隅地域振興局)

P9. 乾燥ストレスによるササゲの早期気孔閉鎖はABA 合成関連因子WRKY に制御される.

*柘原美咲¹・村上真哉¹・三浦寧音¹・駒井玲花²・濱岡範光^{1,2}・井上眞理^{1,2}・石橋勇志^{1,2} (九大院生物資源環境科学府・²九大農)

P10. ササゲとダイズにおけるABAを介した乾燥ストレスメモリー機構.

*三浦寧音¹・村上真哉¹・柘原美咲¹・駒井玲花²・濱岡範光^{1,2}・井上眞理^{1,2}・石橋勇志^{1,2} (九大院生物資源環境科学府・²九大農)

P11. ガーナ内陸低湿地における被覆植物の葉面温度と葉面積.

*團 晴行¹・沖 陽子²・廣内慎司¹ (国際農研・²岡山大)

P12. アセロラおよび *Malpighia* 属植物におけるネコブセンチュウ抵抗性および台木特性について.

*勘米良祥多・赤木 功・山本雅史 (鹿大農)

P13. 冬期前の高さ別剪定がヤトロファの成長と着花に及ぼす影響.

*藪田 伸^{1,2}・富永 淳²・石本雄大^{3,4}・コッツェー T. ⁵・シルビア B. ⁵・川満芳信² (鹿大農・²琉大農・³鳥大農・⁴JICA・⁵ボツワナ国農務省研究所)

P14. 半乾燥地ボツワナにおけるヤトロファ栽培と気象データの解析.

*川満芳信¹・上野正実¹・中原麻衣^{1,2}・富永 淳^{1,3}・藪田 伸^{1,4} (琉大農・²鹿児島連大・³広大理・⁴鹿大農)

P15. インドネシア改良新系統の冠水抵抗性評価.

*岩田晋子¹・坂上潤一¹・Junaedi AHAMAD² (1鹿大農・2ボゴール農科大学)

お知らせ

若手の会開催について

以下の日程で講演会の前日に開催されます。奮ってご参加下さい。

日時：10月7日（金）：（評議員会終了後）17：00～

場所：農・獣医共通棟3階大会議室

講演題目：パッションフルーツ‘ルビースター’が‘サマークイーン’よりも栽培しやすい理由

講演者：島田温史氏（鹿児島大学大学院連合農学研究科生物生産科学専攻）

以上